

第7 築地まちづくり

1. 築地まちづくり方針の位置づけ

平成30年10月、豊洲市場が開場し旧築地市場跡地は、西側に浜離宮恩賜庭園、東側に晴海通りに挟まれた、約23haという大規模な敷地が創出された。

都心のまたとないロケーションにあり、浜離宮恩賜庭園や銀座、隅田川、そして食文化など、この地のポテンシャルを生かし、その魅力と付加価値を高め、東京の持続的成長につながる、新たなまちづくりを行っていく必要がある。

平成30年5月に、外部の有識者から成る築地再開発検討会議により取りまとめられた「築地まちづくりの大きな視点」を踏まえ、平成31年3月に築地のまちづくりの将来像や方向性、進め方を示した「築地まちづくり方針」を策定した。また、令和4年3月には、事業者募集に向けた具体的な条件等を示した「事業実施方針」を公表した。

今後、民間の力を活用しながら、当地区のまちづくりを推進することとしている。

当地区の再開発を進めるに当たっては、周辺地域の付加価値の向上、東京全体としての価値の最大化を図るため、時間軸を意識し、大規模な土地のポテンシャルを最大限に引き出し、周辺との相乗効果や機能分担を図りながら、段階的に適切な機能を順次導入、整備していくことを想定している。

その際、ゾーン区分も踏まえ、民間の活力や創意工夫を最大限活用しながら、整備を進めていく必要がある。

築地地区まちづくりの本格的整備に先立って、旧跡に指定されている浴恩園などがあつた当地区において、各段階の整備に向けて、埋蔵文化財調査、土壌汚染調査等を戦略的に進めている。

